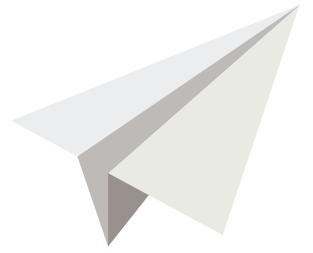


株式会社リニエR 通信

かみひこうき



8月号



「よりそうチカラ」 vol.01

『想い』を受けとめ、『チーム』でつなぐケア

— 多職種 の チーム で 支える 訪問 看護 —



Linie



<https://linie-group.jp>



「よりそうチカラ」

— その人らしく生きる日々の寄り添う —

vol.01

— 多職種 の チーム で 支える 訪問 看護 —

『想い』を受けとめ、 『チーム』でつなぐケア

リニエ訪問看護ステーションキッズ世田谷
看護師 澤 夏希



『想いは伝わる』

Mさまは、先天的なご状態や頭蓋の形成に関わる特性があり、日常生活のなかで医療的なケアを必要としながら過ごされています。夜間は人工呼吸器を使用し、気管切開や胃ろうによる栄養管理を受けておられます。

言葉でのコミュニケーションは難しいものの、手や体の動きを通してしっかりと思いを伝えてくれます。音楽を心から楽しんでいる姿が印象的で、楽器を演奏している時に見せる笑顔はとても魅力的です。

『チームで寄り添う』

わたしたちの支援の特徴は、看護職とリハビリ職（PT・OT）がチームで連携し、それぞれの専門的な視点からMさまのケアに取り組んでいることです。たとえば、入浴の方法ひとつをとっても、成長や体調の変化に応じて見直しが必要です。その際、看護師は安全性の観点。リハビリ職は身体への使い方の観点。ご家族がご本人の生活リズムをふまえて、それぞれの立場から意見を出し合い、最適な方法を一緒に考えています。多職種が連携することで、ひとつの視点では見落とされがちなニーズにも丁寧に対応し、安全でMさまやご家族が安心できるケアにつながるように心がけています。

『チームで変化を支える』

私たちはチーム内での情報共有をとても大切にしていきます。Mさまのように医療的なケアが多く、体調の変化も起こりやすい方の場合、

些細な変化も見逃さない事が重要です。週1回のカンファレンスでは、日々の訪問で気づいたことや、気になる変化、今後の対応についてを話し合っています。さらに、連絡用アプリを活用することで、訪問スタッフ全員がリアルタイムで情報を確認し合い、どのスタッフが訪問しても一貫したケアが提供できるように体制を整えています。

『休むことも、支援です』

Mさまのご家族への支援も欠かせません。とくにお母さまのご負担は大きく、夜間の対応が必要な場面では、心身ともに疲労が重なることもあります。そこで、月に2〜3回は在宅でのレスパイトケア（休息支援）を導入し、ご兄弟と過ごす時間や、お母さまがご自身の時間をもてるよう配慮しています。

「レスパイトの時間があるおかげで、『そこまで頑張れば休める』って思えるんです。だから気持ちも少し楽になりますし、気分転換にも

なって、次の介護を頑張る力になります。」とお母さん。

また、訪問の際にはご本人のケアはもちろん、ご家族の様子にも気を配るようにしています。お母さまとの日常の何気ない会話も大切にしながら、ご家族が安心して頼れる存在になれるように心がけています。「看護師さんはいいつも家族に寄り添うように接してくれて、うちの子とも本当の家族みたいな関係なんです。そのあたたかさ

が、私たちの安心や信頼につながっていると思います。」そう笑顔で話してくれました。

これからも、私たちは専門性とチームワークを活かしながら、Mさまご本人とご家族にとって、安心して過ごせる生活を支えていきたいと考えています。

（看護師 澤）



『言語聴覚士(ST)』という仕事について

こども未来事業部 浅野 ふみ (言語聴覚士)



こんにちは。言語聴覚士の浅野です。言語聴覚士(以下ST)は、1997年に国家資格として制定されました。他のリハビリ専門職である理学療法士や作業療法士が1965年に国家資格となったことを考えると、STは比較的新しい資格と思われるかもしれません。しかし、実際には国家資格として制度化される以前から、言語聴覚療法は行われてきました。現在、国内のST有資格者は約4万3千人にのぼります。

STの専門分野は大きく分けて、「話す」「聞く」といったコミュニケーションに関する支援と、「食べる」「飲み込む」といった摂食・嚥下機能に関する支援の2つに分けられます。これらの機能は、日々の生活を送るうえで欠かせないものであり、対象となるのは乳幼児から高齢者までと、非常に幅広いのが特徴です。

私はこれまで約20年間、主に小児分野のSTとして臨床の現場に携わってきました。小児分野では、発達の遅

れや自閉スペクトラム症などのコミュニケーション障害、難聴、構音障害(発音の問題)、摂食・嚥下障害などの支援を行っています。

私がSTを目指すきっかけとなったのは、大学で言語学を学んでいた際に受講した「言語障害」に関する授業でした。そこで初めてSTという職業の存在を知り、大学院修了と同時に資格を取得しました。当時は、STの有資格者は全国でも1万人以下という時代。自己紹介のたびに、STの仕事内容を丁寧に説明していたのを今でも覚えています。

今後、数回にわたって小児分野を中心に、言語聴覚士の仕事についてご紹介していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



『ライフキャリアレインボー』で人生を見つめなおす

精神科サービス推進室 扇 浩幸 (作業療法士／公認心理師／相談支援専門員)



みなさま、こんにちは。扇です。前回まではウェルビーイングについて6回にわたり考えてきました。今回は「キャリア」についてご紹介していきます。「キャリア」と聞くと「仕事」を思い浮かべる方も多いかもしれませんが、人生は仕事だけでなく、家庭での役割、地域活動、学びや余暇など、さまざまな役割が重なり合って彩られています。そうした人生の全体像を視覚的に表した考え方が「ライフキャリアレインボー (Life Career Rainbow)」です。

提唱者のアメリカの心理学者ドナルド・スーパーは、人生を「時間軸(年齢)」と「役割(家庭人・労働者など)」の2軸でとらえ、各時期に果たす役割の移り変わりを虹の形で示しました。この視点は福祉や介護の現場にも活用できます。

たとえば病気や障害により「働く」ことが難しくなると、「自分には何も残っていない」と感じる方が少なくあ

りません。しかしこの図を使えば、「親として」「友人として」「趣味人として」など他にも多くの役割があることに気づけます。役割を再確認し、バランスを整えることは生活再構築の助けになります。

支援者やご家族にとっても、当事者の「今」の役割だけでなく、「これから担いたい役割」「過去に大切にしていた役割」に目を向けることで、その人らしい支援が可能になります。ライフキャリアレインボーは、人生の物語を多面的に見るためのレンズとなるのです。

詳しく知りたい方は、下記をご参考ください。

参考URL:

<https://www.spi.recruit.co.jp/spi3news/000425.html>

人材育成に役立つ「ライフキャリアレインボー」とは？
メリットや書き方を解説

2023年12月26日





リエ訪問看護ステーション山形を開設

所長 赤塚 郁奈（理学療法士）



令和7年7月1日、山形県山形市に『リエ訪問看護ステーション山形』を開設いたしました。

東北地方では、青森県の『リエ訪問看護ステーション青森青葉』、宮城県の『リエ訪問看護ステーション名取』に続き、3か所目の開設となります。

『リエ訪問看護ステーション山形』は、令和4年4月に開設した『リエプラッツ山形（旧おれんじ学園やまがた）』と同じ建物内にあり、山形駅からもアクセスしやすい山形市城南町に位置しています。

経験豊富な看護師3名と作業療法士1名が在籍し、お一人おひとりのニーズに合わせた専門性の

高いサービスの提供を目指しております。年齢やご病気にかかわらず、住み慣れた地域でその人らしい暮らしが続けられるよう、心を込めて支援してまいります。

今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

リエ訪問看護ステーション山形

〒990-0827 山形県山形市城南町1丁目15-17

電話: 023-665-0157

FAX: 023-665-0158



サービス提供エリア

山形市、上山市、山辺町、中山町
天童市、寒河江市、南陽市



リエプラッツ山形が3周年を迎えました！

所長 赤塚 郁奈（理学療法士）

令和4年4月、「おれんじ学園山形」として山形市東原町に開設して以来、令和5年4月の社名変更に伴い『リエプラッツ山形』へと名称を改め、同年12月に現在の山形市城南町へ移転いたしました。

このたび、無事に開設から3周年を迎えることができましたのも、ひとえにご利用者のご家族の皆さま、関係各所、そして地域の皆さまのご支援の賜物と、心より御礼申し上げます。

これまで個別療育や保育所等訪問支援に加え、0・1歳児親子通所「おれんじ組」、児童発達支援の小集団プログラム「にじ組」、放課後等デイサービス「中高生のためのSST小集団クラス」など、多彩な支援プログラムを展開し、お子さま一人ひとり

に寄り添った療育を提供してまいりました。

今後は、新たに開設された『リエ訪問看護ステーション山形』と連携を図りながら、お子さまのみならず、地域で暮らすすべての世代の方々の支えとなれるよう、スタッフ一同、より一層努めてまいります。

引き続き、皆さまのあたたかいご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

リエプラッツ山形

〒990-0827

山形県山形市城南町1丁目15-17

電話: 023-673-9388

FAX: 023-673-9389

